

お題「土産」互選 投票数付記

3 独り身に土産不要の一人旅

幸男

バイク音朝刊来たと取りに行く
新聞社特ダネ探し走る記者
新聞紙回収前に読み返す
若い人スマホでニュース紙不要

基弘
登美
ひよこ
ミチ

冥土の土産土用に食べた上鰻

アキラ

一日の初め終わりに繰る紙面
目立たぬ記事にビッグニュースが潜んでる

千楽

道迷いアイス溶けだし慌てだす

基弘

新聞も読みだすと良い癖になる
机いっぱい新聞広げ読む至福

千楽

おみやげと何か持たしてくれた母

乃り子

まさかから又もと思う怖い記事
ニュースより先にチラシとテレビ欄

アキラ

4 ささやかな土産が癒やすお留守番

健一

どの新聞読んでいるかが透けて見え
秀 戦争報道行間のファシズム

英二

病院でコロナをもらい大目玉

千楽

軸 新聞で漢字覚えた窓ふいた

よう子

甲子園の土勲章にする球児

郁子

軸 新聞で漢字覚えた窓ふいた

健一

嫁候補今日一番の土産もの

ミノル

どの新聞読んでいるかが透けて見え
秀 戦争報道行間のファシズム

英二

どれにしよ選び迷ってありきたり

ひよこ

軸 新聞で漢字覚えた窓ふいた

正清

帰省して土産話しに沸く座敷

哲子

軸 新聞で漢字覚えた窓ふいた

広子

5 手土産に何時もひと言多い父

英二

お題「うっかり」(共選) 谷口ひよこ選

英二

貰った土産ネット検索値段見る

英二

日傘忘れ片影もなき炎天を
パワード忘れいち日回らない

郁子

6 これでもかと持たせて帰す里帰り

広子

うっかりが喧嘩の種を撒き散らす
本心を隠すうっかり技のうち

乃り子

秀 7 旅終えて家族の土産無事な顔

よう子

ウソついてうっかり忘れ赤っ恥
記念日をうっかり忘れ覚悟する

きよな

7 旅土産配って軽い義理すます

よう子

ウソついてうっかり忘れ赤っ恥
記念日をうっかり忘れ覚悟する

ミノル

お題「流れる」小妻健一選

哲子

ウソついてうっかり忘れ赤っ恥
記念日をうっかり忘れ覚悟する

アキラ

長く生きた過ぎた月日は矢の如く

哲子

球場に子ども忘れた大選手
パリ研修SNSの上機嫌

健一

こだわりのアレに応えた岡田流

郁子

しっかりをうっかり忘れがっかりと
コンビニのレジで診察券を出す

幸男

早すぎる時の流れに怖れなす

ひよこ

メダカのエサ今朝あげたかと我に問う
処理水を汚染水だといったひと

哲子

国民の声聞き流す聞き上手

郁子

特殊詐欺答えの途中もしかして
生徒手帳洗濯まわしぼおろぼろ

ミチ

棹を差す流れに一人水を差す

幸男

秀 油断してうっかり本音ティータイムよう子
軸 今日だった廃品回収また忘れ

ひよこ

帰り道小川でレース草の舟

ミチ

うっかりがめつきり増えて丸くなる
うっかりも愛嬌の年はるか越え

英二

空見上げ言えずに終わる願いごと

きよな

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

後がない時間よ少しゆっくりと

広子

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

正清

空の青に免じて今日は聞き流す

基弘

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

猛暑日に急な用事で滝の汗

アキラ

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

Jアラート流れて民の無関心

千楽

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

ふるさと押し流す濁流に絶句

乃り子

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

自業自得流れついでるプラのゴミ

乃り子

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

秀 今日汗きつとあなたを輝かす

英二

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

軸 素麺が手もとすり抜け照れ笑い

健一

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

お題「新聞」(連記) 原 広子選

焼芋に英字新聞のおしゃれ

ちさと

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

読み終えて泥つき野菜包みもす

哲子

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

朝イチのニュースで変わるカフェの味

乃り子

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

我が川柳載った時だけとる写真

きよな

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

地元紙に狭き世間を垣間見る

幸男

うっかりはいつものことの高齢期
酔と酒を電気もつけず盗み酒

博文

番組表から新聞は読みはじめ

博文

今日だった廃品回収また忘れ

ひよこ

パソコンをたちあげたけど何だっけ ひよこ
誤字だらけ指の太さのせいにする ちさと
うっかりが喧嘩の種を撒き散らす きよな
記念日をうっかり忘れ覚悟する 哲子
秀 子のいない顧客の前で孫自慢 健一
軸 しっかりとをうっかり忘れがっかりと幸 男

自由吟 自選六句 五十音順

夢と絶望共に乗せあゝ上野駅 千 楽
村人の汗した駅舎いまガラン
大輪かナデシコか日々迷います
街ピアノ人は誰しもミュージシャン
宇宙にはないか砲弾雨あられ
優しい上司旅立ち早いなぜなのか

あらあらと驚くママの優しい眼 基 弘
父のこと誉めているんだ母の愚痴
春と秋迷子にさせた温暖化
また今度または明日か一年か
頼みごと五円で済ます神仏
バスの旅開放感の缶ビール

淋しげに鳴くセミの声秋ですな 博文
訪問先増える一方ホスピタル
近頃は相撲の客もグローバル
ウォーキング今朝も会えない友の顔
うっかりはいつものことの高齢期
今日もやる川柳つくり脳トレだ

完璧を目指して丁度いい加減 義 雄
忘却は神に貰ったクリアキー
雄弁に勝るささやきプロポーズ
食べ過ぎよ米寿の席で叱られる
秋夜長話し上手に聞き上手
戦争は忘れぬうちにやって来る

夫が言うひと味足らぬ無添加は 乃り子
上がった記憶ないのに今じゃ下り坂
A型とB型ひとつ屋根の下
二度目だが初めてのよに耳を貸す
戦争を知らぬ子じやない大人です
句読点つけず走って来て卒寿

折半にしてご遺灰の重い方 ちさと
絵日記にじいじとばあばキスをする
スロープがきつく途中で車イス
クラス会流れてほっとウオシユレット
真心を忘れ最寄りのあずかり所
ややあつてジュエルアートになる夜空

あやとりを祖母に教える小さな手 健一
のど自慢歌に触れずに笑顔褒め
クレヨン画かき直したい母の顔
鬼上司送る言葉に笑みが漏れ
待ち遠しい孫が来る日と帰る日と
震度七人生変えた十二秒

襲いくる熱波災禍は地球規模 郁子
終わりになき戦未来の負の遺産
楯と矛フアジーになっていく安保
春の泥戦車が深くする轍
思い出のかけらを繋ぐ同窓会
付き合いの浅く途切れずある縁

真夏日と言うから余計暑くなる よう子
日暮坂のこり時間を愛おしむ
家電には老いの頭が追いつかず
在りし日の話聞きたい三回忌
群れるのが好きな中にもある孤独
結論は焦らなくても陽はのぼる

嫁候補今日一番の土産もの ミノル
本心を隠すうっかり技のうち
未来とは乳児のまるさまん丸さ
恨みなどありませんわと口利かず
まごころが生きのびているラブレター
人生は誤解重ねて波静か

弱音はき匍匐でのぼる歎異抄 正 清
磴のぼり先妣の墓所の吾亦紅
玉音に開聞岳が渡り旧る
円虹に阿修羅がお在す雨あがり
こっそりと嘘をまぶして仏国土
野仏がちよこなんとして古戦場

あれこれと夢を描くがままならず
気のゆるみ見ていたようにコロナ増え
ハッカ一滴疲れたマスクよみがえる
久々の運転の子に口はさむ
書きたいと思う言葉が出て来ない
靴音で帰宅が誰かわかる母

ひよこ

こわばりをグーチョキパーでほぐす指
好きだから捕えて欲しい鬼ごっこ
断捨離に後悔もありスツキリも
喜寿を過ぎ超特急でなる傘寿
幸せか不幸せかと七を書く
腹式ですつと吐き出すストレスも

幸男

ベランダの空に半分あとは音
冷コーと夢と有線喫茶店
誤解され説明できず口つぐむ
りんの音に澄みわたる場の心地よさ
墓参り草が木になり道具なし
スマホなき伝言板の白チョーク

ミチ

天国にラインしている暢気もの
慌てん坊なんで俺より先に逝く
少しだけ優しくなれば楽になる
蝉にも言い分が黙って聞こうか
二才の児声がするだけでも楽し
ありがとうその一言が友を呼ぶ

えいじ

用心は悪いが隣地空が良い
食卓のトップの座にはやせサンマ
共白髪誓ったはずの夫禿げた
似ないでと願う癖程似る親子
なつて見て人の苦しみ解かる今
親子の縁崩れる程の要介護

登美

三面記事見てきたように話す友
食べ放題あとで必ずくる懺悔
横に居てくれるだけでも頼もしい
同窓会マスク外すもあんた誰
子は巣立ち次のページは自分流
寢床には左脳と遊ぶ宇宙あり

哲子

君となら雨も楽しいハイキング
人に会いたくて続けるボランティア
分かりあう友いて明日も羽ばたける
梅花藻が水の流れにたじろがぬ
生かされていると思えば言えぬ愚痴
こだわっているから明日へ進めない

アキラ

秋飛びこし寒さ身にしむ冬の朝
このご時世家も心もかける鍵
強さより優しさを持つ人が好き
よう来たなばあちゃんシワ嬉しそう
今もなお小三の彼夢の中
亡き人と造幣局の八重桜

きよな

いい汗にいい風きつと吹いてくる
しみじみと冷えたビールに惚れ直す
悪あがきするとしないで大違い
重い荷を軽いふりして生きてます
魂が軽く触れたね素敵だね
咲き急ぐ花に心が追いつかぬ

広子

勉強会 お題「飲む」 ☆印は佳句
☆ひとり飲み愉しむ女にはなれず
☆夕食に二人でひとつロング缶
☆バスの旅開放感の缶ビール
祝勝会怖い上司もえびす顔
勿論よ昨日も飲んだ今日も飲む
飲み込みの悪さ年々増すばかり
ひと言をグツと飲み込む平和主義
飲み放題に挑むつわもの同い年
夜ゆっくり耐ハイ旨い一人酒
山津波関東の村一気飲み
帰国して水道の水ゴクゴクと

郁子
健一
基弘
健一
えいじ
博文
ひよこ
郁子
きよな
千楽
アキラ

言わんとこ心の中にあるボヤキ
墓参り小さな嘘を思い出す
パスポート僕の勲章夢の跡
あの日あの時戻りたいかと訊かれても
傘寿卒寿それでもやはりもう少し
独り暮らし料理の腕を持て余す

英二

ひよこ

アキラ

推薦十句

手土産に何時もひと言多い父	英二
貰った土産ネット検索値段見る	英二
国民の声聞き流す聞き上手	郁子
焼芋に英字新聞のおしゃれ	ちさと
朝イチのニュースで変わるカフェの味	乃り子
ニュースより先にチラシとテレビ欄	健一
コンビニのレジで診察券を出す	英二
誤字だらけ指の太さのせいにする	ちさと
バスの旅開放感の缶ビール	基弘
ひと言をグツと飲み込む平和主義	ひよこ

奈良番傘川柳会 会長田中 薫選

十月公開句会 いきいき二階 十月十六日(月)
十二時四十分から会場準備 十三時出句々
「記憶」(互選) 前日までに事前投句のこと
「散歩」(連記) えいじ 「飛ぶ」 広子
「ひそひそ」(共選) 健一 哲子 各二句
自由吟(記名・連記、メモで提出) 二句